

# 指導資料



鹿児島県総合教育センター

## 道徳第30号

- 小学校・特別支援学校対象 -

平成20年10月発行

### 自他とのかかわりを深めながら 道徳的実践力を育てる道徳の時間の在り方

～コミュニケーションを深める活動を通して～

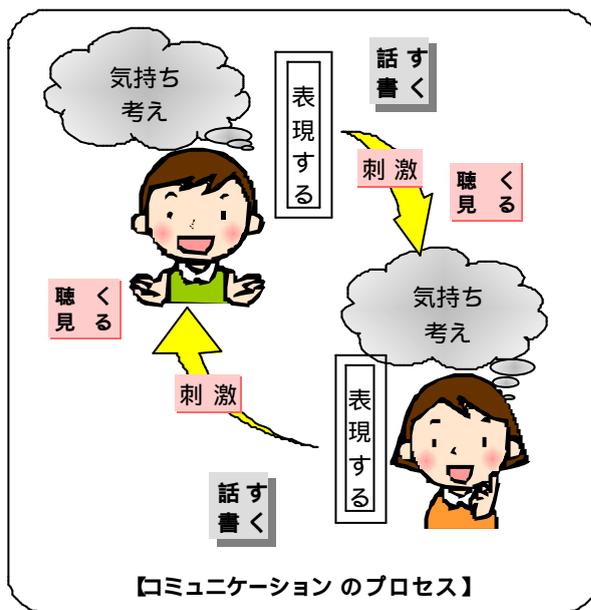
学習指導要領改訂の基本的な考え方（平成20年1月の中央教育審議会の答申）の中で、豊かな心の育成に関しては、「自分に自信がもてず、将来や人間関係に不安を感じているといった子どもたちの現状を踏まえると、子どもたちに他者、社会、自然・環境とのかかわりのなかでこれらと共に生きる自分への自信をもたせる必要がある」ということが、指導の観点として挙げられている。日常の様々な豊かなかかわりを通して、共に生き、自己との対話を重ねながら、よりよく生きる人間の育成が求められている。

また、言語活動の充実については、今回の改訂では各教科等を貫く重要な改善の視点である。道徳の時間では、中心的な資料が生かされ、児童の体験や資料に対する感じ方や考え方を交えながら話し合いを深めることが学習活動の中心となることが多く、言葉の役割は極めて大きいといえる。

そこで本稿では、言葉を中心としたコミュニケーションを深める活動を通して、自他とかわりながら道徳的価値の自覚を深め、自己の生き方についての考えを深める道徳の時間の在り方について述べる。

#### 1 コミュニケーションの過程

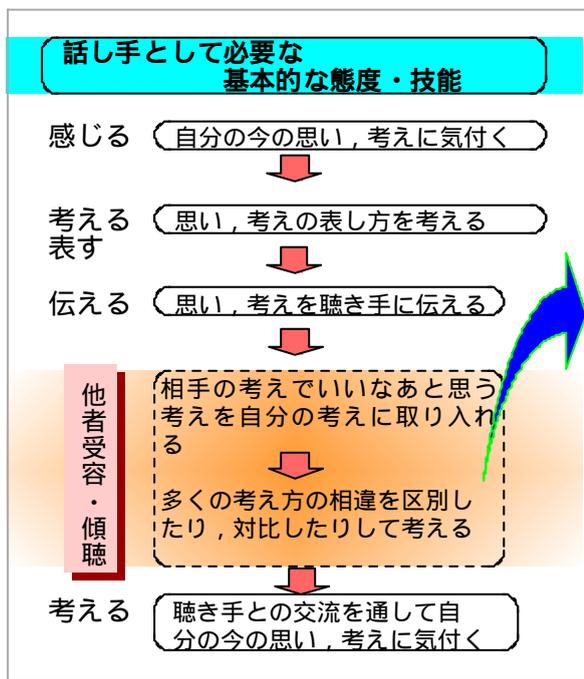
コミュニケーションは、情報の受け手となったり、情報を新しく創り出し、情報を送信したりするという一連の過程をいう。自分が表現したことは、相手によって聴かれ、相手に何らかの思いや考え方を起し、それが相手の表現に結び付く。また、相手が表現したことは自分が聴き・見て、受け取った刺激が自分の中で思いや考えを引き起こし、何らかの反応となって表現される。コミュニケーションのプロセスを図で表すと次のようになる。



一般的にコミュニケーションの手段には、言語的なもの（文字、話し言葉）と非言語的なもの（表情、目の動き、身振り、手振り等）がある。道徳の時間には、話し合い活動が最もよく用いられるが、話し合いを深めるには、相互に理解し合おうとする心の有り様が求められる。道徳の時間においては、自分の思いや考えを言葉にして伝える力、相手の言葉をなるべく正確に受け止める力の双方が求められる。話し手、聴き手の両面から態度や技能を明らかにし、コミュニケーション能力を育てていく必要がある。

## 2 話し手として必要なコミュニケーション能力の育成

話し手として必要な基本的な態度・技能は、次のように整理できる。



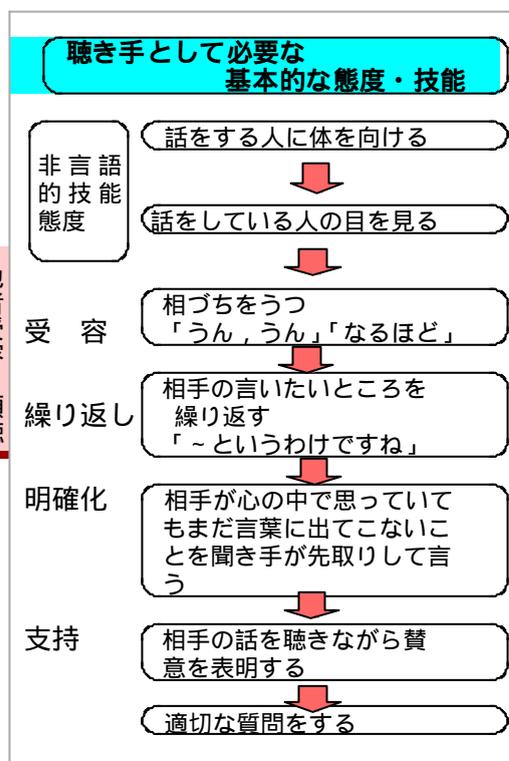
自分の思いや考えを相手にうまく伝えるには、それらに気付き、具体的な言葉を選び、それを表現しなければならない。

同じことを伝える場合でもどのように伝

えるか、その表現の仕方によって相手の受け取り方が異なり、ときには相手に不快な思いをさせることもある。会話のやりとりの中では、自分と相手の内面で起こっている作用は互いに見えない。表現を介してでしか理解を進めることができないので、相手の思いや考えを正確にとらえるようにしてから自分の思いや考えを伝えることが大事である。

## 3 聴き手として必要なコミュニケーション能力の育成

聴き手は、相手の発信することを受け止める力、最後まで話を聴き、的確に理解する力、相手が気持ちよく話すことができるようにする力などが必要である。聴き手として必要な基本的な態度・技能は、次のように整理できる。



このような話し手、聴き手としての態度や技能は、各授業を通して身に付けさせる

ことになるが、道徳の時間では、取り上げる資料内容と関連させたり、コミュニケーションを深める活動を設定したりして、段階的、具体的に習得を図ることができる。その際、コミュニケーションを図る非言語的的技能（表情、目の動き、身振り、手振りなど）についても合わせて指導する必要がある。相手の話を上手に聴くために、「きちんと聴きましょう」で終わるのではなく、

相手に体を向ける 相手の目を見る 相づちをうつという3つの具体的技能を体験させながら身に付けさせていくという指導である。

また、各学校では、各教科・領域と関連させて、発達の段階を考慮したコミュニケーションを深める指導について、計画的な発展的な全体計画を作成していくことが求められる。

#### 4 実践例～コミュニケーションを深める活動を通して～

- 1 主題名 自分の考えをはっきりと
- 2 資料名 「自分の考えを伝えよう」＜3年 読み物資料・学習研究社＞
- 3 ねらい  
自分の考えをはっきりと伝えるとともによく考えて行動しようとする態度を育てる。  
(1-(1) 節度・節制, 自立)

| 過程   | 教師の働きかけ, 主な発問例 ( は中心発問)   | 指導方法の工夫   |
|------|---|---|
| 導入   | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分や友達の生活体験を想起させる。<br/>友達に自分の気持ちを伝えられなくて困ったことはなかったか。<br/>そのときの気持ちはどうだったか。<br/>自分の気持ちをしっかり伝えることは大切だと思うか。</li> <li>2 共通した道徳的課題に気づかせ、学習のめあてをつかませる。<br/><div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の考えをはっきりと友達に伝えるにはどんな心がけが大事だろう。</div></li> </ol>   | <p>児童の生活場面で、自分の気持ちを伝えられなくてこまった事例を把握しておき、想起できないときは例示できるようにしておく。</p> <p>日常生活を想起させ、互いに自分の気持ちを正直に伝え、気持ちよく生活できるようにするにはどうすればよいかという課題をつかませる。</p>   |
| 展開前段 | <ol style="list-style-type: none"> <li>3 資料を読み、二人組で役割演技を通しながら、主人公ひろみの気持ちを考える。<br/>・ たかしに「文房具を貸してよ」と言われたときのひろみの気持ち<br/>・ 「自分の考えをちゃんと伝えなくっちゃ」とさゆりに言われたときのひろみの気持ち</li> <li>4 グループで考えた受け答えを発表し合い、最も望ましい対応について話し合う。<br/>どうい受け答えをすれば、自分も友達も気持ちよく思いを伝え合うことができるだろう。<br/>非言語的技術の面から<br/>・ 声の大きさ ・ 表情 ・ 目の動き<br/>言語的技術の面から<br/>(スキルの理解)<br/>・ 相手に応えられない残念な気持ち<br/>・ 断る理由 ・ 断る ・ 代案</li> </ol> | <p>セリフを覚えて役割演技をさせる。<br/>役を入れ替えて役割演技をさせる。<br/>それぞれの役をして、感じたことをワークシートに記録させ、互いの気持ちを交流させる。<br/>自分の考えをはっきり友達に伝える際の心構えについて話し合う。</p> <p>グループで話し合い、最もよい受け答え方を考え、ワークシートにまとめさせる。</p> <p>非言語的技術、言語的技術の両面から考えさせ、より望ましい対応について整理する。</p> |
| 展開後段 | <ol style="list-style-type: none"> <li>5 全体で考えた対応の仕方では伝え合う活動を練習し、互いの思いを交流させたり、これまでの自分を振り返ったりする。<br/>練習の手順 手本を示す 練習 評価</li> </ol>  | <p>役割演技の際の気持ちと比べさせ、言葉遣いや行動を少し工夫することで、相互に気持ちのよい伝え合いができることを分らせる。</p>  |
| 終末   | <ol style="list-style-type: none"> <li>6 本時をふりかえり、今後の自分の望ましい生き方を志向させる。</li> </ol>   | <p>考えや気持ちを伝える場合、相手の立場に立った言動が大切であることをおさえるとともに、本時の学習をいろいろな生活場面で生かしていくよう助言する。</p>  |

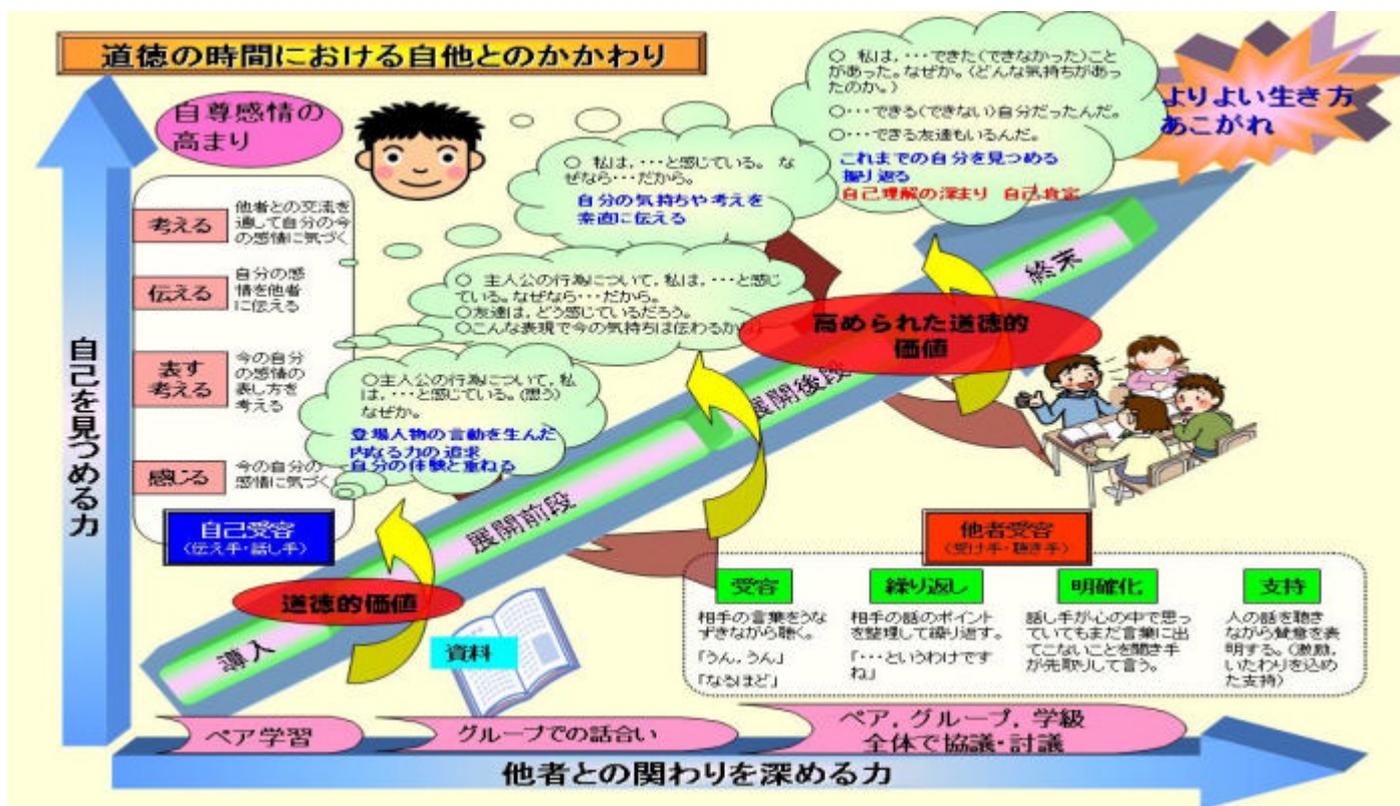
## 5 授業を日常生活と響き合わせる

道徳の時間は、価値の内面的な自覚を促すというねらいをもち、行為に直接働きかけて児童の変容を求める練習的、実習的なスキルの指導が中軸となる時間ではない。

しかし、児童は日常の生活や学校の全教育活動で体験をしている様々な道徳的価値に触れ、感じ、考え、心を動かしている。誰もが経験するような生活場面を設定し、

自分の思いや考えを感じ、それを表現する練習を通しながらコミュニケーションを深めるなどの展開を工夫することで、その心の動きと道徳の時間における指導とが響き合う授業が成立する。

なお、本稿で取り上げた自他とのかかわりを深め道徳的实践力を育成する道徳の時間の在り方を図示すると下のようになる。



## 6 おわりに

本稿では、自他とのかかわりを深め道徳的实践力を育てる道徳の時間の在り方として、コミュニケーションを深める活動を通じた実践例(P3)を示した。

人間関係が希薄化している昨今、自己理解や他者理解を深め、自他ともによりよく生きようとする道徳性をはぐくむために

は、伝え合う能力は今後ますます重要になってくる。道徳の時間においても、意図的計画的にコミュニケーションを深める活動を組込む必要性が生まれてきている。

〔引用・参考文献〕

- 『小学校学習指導要領解説 道徳編』平成20年6月 文部科学省
- 『自己カウンセリングとアサーションのすすめ』平成11年5月 平木典子著 金子書房
- 『道徳教育』平成19年1月 明治図書
- 『指導と評価』平成20年5月 日本教育研究会

(企画課)